

令和元年6月10日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03884

研究課題名（和文）戦略形成プロセスからみる新興国のイノベーション：日本企業の創発的グローバル戦略

研究課題名（英文）Innovation in emerging countries and the strategy formation process: Emergent global strategies of Japanese companies

研究代表者

三嶋 恒平（MISHIMA, Kohei）

慶應義塾大学・経済学部（三田）・准教授

研究者番号：90512765

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）： 本研究成果は第1に、新興国におけるイノベーションを戦略形成プロセスから解明しようとしたことだ。第2に、日本企業のグローバル創発戦略から、戦略形成プロセスの内実としての経営資源の配分を解明し、内部組織のありようを示そうとしたことだ。第3に、二輪車産業を事例としながら日本企業の能力構築と新興国の市場・拠点でのイノベーションの発現について明らかにしようとしたことだ。

これら成果を踏まえ、学会等で報告を14回（うち国際学会・会議8回）行った。さらに報告を踏まえ、現在、英語論文を執筆中である。こうした報告を通して、議論をより深く理論化を果たしつつあるとともに、研究成果の社会的還元を果たすことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果の学術的意義は、第1に、新興国での戦略形成プロセスを具体的に示し、新興国から先進国へのイノベーションの移転と共有に関する具体例を示すことができたことだ。第2に、新興国のイノベーションとその共有のメカニズムである戦略形成プロセスが明らかになりつつあることだ。第3に、事例の稀少性と重要性だ。新興国で重要なオートバイ産業は日本企業が寡占的で日本語以外の先行研究がほとんどなく、本研究は英語での発信に努めた。

本研究成果の社会的意義は競争優位の源泉をダイナミック、グローバルに提示したことにより、新興国が主役になりつつある国際経営について、学会のみならず実務家にも今後の展望を与えたことだ。

研究成果の概要（英文）： The main findings of this study are as follows. First, we tried to explain innovation in emerging countries from the strategy formation process. Second, we could recognize from the global emergent strategy of Japanese firms that strategy formation process, the allocation of management resources and organization ability mutually affect each other. Third, this study made it clear that the capability building of Japanese companies and the innovation of the markets and their subsidiaries in emerging countries through the case of the motorcycle industry.

Also we made a report 14 times at a society etc. (including 8 international conferences and meetings). Based on these presentations, we are currently writing English papers. Through these presentations, we deepened the argument and tried to build the theory. Furthermore, we were able to achieve social return of this study results.

研究分野：国際経営論

キーワード：新興国 イノベーション オートバイ産業 国際経営 戦略形成プロセス 企業行動 創発的戦略 インド

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

新興国の成長は近年著しく、企業経営の実態面においても、国際経営論や企業戦略論においても重要性を高めていた。しかし、新興国でのイノベーションや企業行動、戦略に関する研究蓄積は十分ではなかった。こうした実態面と先行研究の到達点のギャップを埋めるべく、本研究が開始された。

#### 2. 研究の目的

本研究の目的は(1)新興国におけるイノベーションを戦略形成プロセスから解明すること、(2)日本企業のグローバル創発戦略から、戦略形成プロセスの内実としての経営資源の配分を解明し、内部組織のありようを示すこと、(3)二輪車産業を事例としながら日本企業の能力構築と新興国の市場・拠点でのイノベーションの発現について明らかにすること、の3つだ。こうした本研究の特色は(1)実態調査の繰り返しによる実証的な研究、(2)既存研究がほとんど存在しない戦略形成プロセス論の新興国のイノベーションへの適用、(3)事例である二輪車産業に関する研究蓄積の稀少性と新興国における重要性、にある。

#### 3. 研究の方法

主たる研究方法は次の3つだった。本研究は統計等マクロデータを中心とした資料の収集、整理および企業や官庁への訪問、市場調査、工場見学による実態把握を通じた研究が中心となった。それゆえ、本研究は事例として取り上げるタイ、インド、ブラジル、アフリカで徹底的な現地調査を行った。第2に、本研究は新興国でのイノベーション創発とその戦略形成プロセスに関する理論モデルの構築を目指した。そうした面から本研究は上記に加えて日本の本社、マザー工場における日本企業での実態調査も行った。あわせて、本研究は各種文献や学会誌に関する先行研究のサーベイを繰り返し、国際経営学や企業戦略論に関する理論的深化を図った。第3に、本研究は海外での学会誌に向けた英語論文を執筆中である。論文執筆プロセスにおいて、口頭報告を国内外の学会や企業で繰り返し、本研究で行う実態調査や理論的考察の妥当性を検証し、その深化を図った。

#### 4. 研究成果

本研究成果の学術的意義は、第1に、新興国での戦略形成プロセスを具体的に示し、新興国から先進国へのイノベーションの移転と共有に関する具体例を示すことができたことだ。第2に、新興国のイノベーションとその共有のメカニズムである戦略形成プロセスが明らかになりつつあることだ。第3に、新興国で重要なオートバイ産業は日本企業が寡占的で日本語以外の先行研究がほとんどなく、本研究が英語での発信に努めたことだ。

本研究成果の社会的意義は競争優位の源泉をダイナミック、グローバルに提示したことにより、新興国が主役になりつつある国際経営について、学会のみならず実務家にも今後の展望を与えたことだ。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

1)研究論文(大学,研究機関紀要)単著(招待・査読なし) 三嶋恒平(2019)「輸入代替プロセスを通じた産業発展:タイ二輪車産業の事例」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会 219/1,53-71, 0387-3129

〔学会発表〕(計14件うち招待2国際8)

1) 口頭発表(一般)

Kohei Mishima, “Management of MNEs on Overseas Subsidiaries and Innovation; Case of the Brazilian Motorcycle Industry”, POMS 2018 International Conference, 2018/10/24

2) 口頭発表(一般)

Kohei Mishima, “Development of Southeast Asian motorcycle industry and contribution of Japanese firms”, 26th International Colloquium of Gerpisa, 2018/06/12

3) 口頭発表(一般)

Kohei Mishima, “The Source of Competitive Advantage of Indian Motorcycle Industry”, Edinburgh-Kobe Dialogue on the Economic Development in South Asia, 2018/05/04

4) 口頭発表(一般)

Kohei Mishima, “The Automobile Industry in East African Community”, The International Conference on Production and Operations Management 2017, 2017/06/29

5) 口頭発表(一般)

Kohei Mishima, “The Source of Competitive Advantage of Indian Motorcycle Industry”, 25th International Colloquium of Gerpisa, 2017/06/16

6) 口頭発表(一般)

三嶋恒平, 「インド製造業の競争優位を探る オートバイ産業の国際比較分析」第24回アジア経営学会東部部会, 2017/06/03

7) 口頭発表(一般)

Kohei Mishima, “How to develop EAC motorcycle industry”, East African 2nd Manufacturing Business Summit“Harnessing the Manufacturing Potential for Sustainable Economic Growth”, 2017/05/25

8) 口頭発表(一般)

三嶋恒平, 「フィールド調査と論文をつなぐ ~30代研究者の事例~」国際ビジネス研究会第88回関東部会「フィールド調査の方法」, 2017/01/21

9) 口頭発表(招待・特別)

Kohei Mishima, “Policies for Promoting Motorcycle Industry Development in East African Community” Comprehensive Study on Modalities for the Promotion of Automotive Industries in the East African Community, 2016/10/24

10) 公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等

Kohei Mishima, “Policies for Promoting Motorcycle Industry Development in EAC:Lessons Learned from Experience in Southeast Asia” 東アフリカ共同体自動車製造振興に係る政策立案支援, 2016/09/30

11) 口頭発表(一般)

Kohei Mishima, “Strategy and Innovation Management of Honda Motorcycle Business”, The 5th World Conference on Production and Operations Management, 2016/09/08

12) 口頭発表(招待・特別)

三嶋恒平, 「バングラデシュのオートバイ産業 輸入代替の実態とその課題」第17回アジア中古車流通研究会, 2016/07/16

13) 口頭発表(基調)

三嶋恒平, 「産業のグローバル展開と市場のローカル化: 東南アジア・南アジア二輪車産業の比較から」第56回比較経済体制学会全国大会共通論題「国民経済とグローバル化する産業発展 比較経済学的アプローチ」, 2016/06/05

14) 口頭発表(一般)

Kohei Mishima, “Strategies for Promoting Motorcycle Industry Development in Bangladesh”, 24th International Colloquium of Gerpisa, 2016/06/02

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。